

(68)

氏名(生年月日)	カモトシコ 加 茂 登 志 子
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1522号
学位授与の日付	平成6年12月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	遅発性 anorexia nervosa の症候学的特徴と発達論的発症背景について
論文審査委員	(主査) 教授 田村 敦子 (副査) 教授 大森 安恵, 小暮美津子

論 文 内 容 の 要 旨

〔目的〕

Anorexia nervosa (AN) は思春期痩せ症と同義に扱われ易いが、稀ながら思春期以降に発症する遅発性AN(遅発例)の存在もまた知られている。希少さゆえ、まだ不明な点が多い遅発例について自験例3例を得たので、本論では、文献の考察に加え、臨床像、経過、症状学的特徴を明らかにし、その発達論的発症背景について試論を展開することを目的とした。

〔対象および方法〕

1983~1992年までに東京女子医大神経精神科に入院した女性例3例について詳細な症例報告を行った。文献的には遅発例について、1976~1990年までに17例(本邦7例)の比較的詳細な症例報告があるので、これをふまえて、まず従来指摘されている思春期例と自験例の症状学的横断面像を精神病理学的に分析した後、主としてErikson, E.H. のライフサイクル論に依拠して、遅発例の発達論的発症背景について論を展開した。

〔結果〕

これまでの報告によれば、遅発例は30~40歳台に多く発症し、結婚率、挙子率共に高く、発症が緩徐で受診までの期間が長い。自験例全例(初診時38~48歳)がこの文献的考察で得た特徴にほぼ一致した。また、初発年齢を除けば、現行のANの診断基準(末松ら、DSM-III-Rなど)に該当した。

〔考察および結論〕

1. 症状学的特徴を示す。①食と体重を巡る症状では、思春期例の痩せ願望、体重恐怖、多彩で劇的な食習慣異常など著明な恐怖強迫症の特徴に対比し、遅発

例の超俗的価値観、禁欲主義的痩せ志向、受動的な不食、身体性無視などが指摘された。②自意識葛藤としては、思春期例の自己不全感や自立葛藤に、遅発例の孤立的理想主義や強い自己欺瞞性が対比された。③対人関係障害としては、思春期例の社会性獲得過程での「全か無か」的態度に対し、遅発例では既得された社会性の切り捨て過程での排他的自己防衛と親密さの不足が挙げられた。家族関係では、夫婦関係の希薄さが特徴的であった。この症状学的差異をもたらす要因として、生物学および発達心理学的ライフサイクル(LC)上の両者の位置の相違が想定された。

2. 人格の総体的発達という観点から、遅発例の諸特徴は、思春期例で指摘される狭義での自我同一性獲得過程の障害よりも、むしろEriksonによって指摘された成年前期の課題である親密さの獲得に深い関わりをもつ。遅発例の痩せは孤立のカリカチュアとも見做される。

男女共通の発達課題と現代の女性特有の発達課題が、互いに強く干渉し合う時が女性のLC上ANの発症状況を形成するとすれば、狭義の思春期とは別に、結婚と出産を巡る成年前期もまた有力な発症状況を形成し得る。ANの発症状況は女性のLCに即して再検討されるべきである。

論文審査の要旨

思春期発症の anorexia nervosa に比して、思春期以降に発症する遅発例についてはまだ不明な点が多い。本論文では、自験の遅発例について臨床像、経過、症状学的特徴(1. 食と体重を巡る症状, 2. 自意識葛藤, 3. 対人関係障害の3側面)について、思春期発症例のそれとを精神病理学的に比較検討した。また、主として Erikson, E.H. のライフサイクル論に依拠して、遅発例の発達論的発症背景、発症状況となり得る局面について、文献的考察を加え、著者の試論を展開した。

長い経過の後、不幸な結末をみることの少ない摂食障害の臨床精神病理研究として価値ある論文である。

主論文公表誌

遅発性 anorexia nervosa の症候学的特徴と発達論的発症背景について

臨床精神病理 第15巻 第2号 191-208頁(平成6年8月31日発行) 加茂登志子

副論文公表誌

- 1) 季節性感情障害—最近の動向から—。臨精医 19(1) : 103-111 (1990) 加茂登志子, Kasper S
- 2) 人格の全体論的ダイナミズムからみた中年期鬱病の難治化について—女性例の検討—。東京精神医学会誌 10(1) : 17-22 (1992) 加茂康二, 加茂登志子, 難波隆之, 平澤伸一

- 3) 健常者の気分・行動の季節性変化に関する小調査—自己記入式質問票 Seasonal Pattern Assessment Questionative を用いて—。精神医 35(8) : 837-840 (1993) 加茂登志子, 加茂康二, 中平 進, 坂元 薫
- 4) A nationwide survey of seasonal affective disorder at 53 outpatient university clinics in Japan. Acta Psychiatr Scand 87 : 258-265 (1993) Sakamoto K, Kamo T, Nakadaira S, Tamura A, Takahashi K